

ぼくの今に続く道

小学六年 小山 颯天

「やべえ小山だぞ」

県大会に出場すればだれもが口にする。今では県最強とまで言われるようになったぼく。でも、昔はすごく弱かった。

一年生の時、仲の良かった友達と剣道を始めた。一年、二年の時はとても弱くて、試合をしても全然勝てなかった。それで、一時期は、やめたいと思った。でも、あこがれの先ばいがとてもきつい練習をがんばってやりきっているのを見て、ぼくはまたがんばろうと思い、ふみとどまった。

三年生になって二年生の時よりは上達したものの、やはり試合では負けてしまうことが多かった。そこでぼくは、来年の冬まで毎日練習しようと決意した。月、火、水、金、土は道場で、木は高校生や高段者の先生がたとけい古をし、日は、朝早くから、高段者の先生とけい古をした。すごく大変で、体がいたくなったり、少し動けなくなったりもあって、休みたいとも思ったが、必死でやりきった。本当につかれた。でも、毎日毎日がんばった。

四年生の時、一年間の練習の成果がでた。全能登三位、石川県三

位をとった。その時は、とてもうれしくて、飛び上がった。

五年生になって、順調に勝ち上がり、ついに全国大会へ出場できるようになった。しかし、コロナのえいきょうで、出場できなくなり、ショックで泣いた。

そして今年、六年生になり、全国大会に三回出場、そのうち二回もベスト十六に入賞した。そして石川を背負うキャプテンとなった。それからほとんど負けなくなり、最強と言われ始めた。これらことから、努力はむくわれると感じた。

あと半年でぼくは中学校へ行く。中学校では、日本一をとれるようにがんばりたい。これが僕の道だ。